

用水路内 200m地点の植樹風景。1㎡あたりに約10本、シルトと砂質の混合土、ポンプを使わずバケツ、後はひたすら、一に水やり、二に水やり、三四無くて五に水やり、面倒な小細工は要らない。これで活着率95%以上を誇る。2017年6月12日



沈砂池 I の現在。ほぼ完成が近い。コーティ用水路もサイフォンができ次第、一か月後には流れる。排水路 1 はタラーン村を潤すためだ。湿地は急速に減りつつある。カチャラ分水路 2 は、沈砂池から 50m 下った主幹水路から注がれる。2017 年 6 月 12 日



コーティ用水路と排水路1。主要排水路2がクナール河側にあつて、こちらは緊急用。洪水時に河の水面が高くなつた時だけ、比較的小水量が流れる。現在タラーン村のためだけに流されている。湿地はこの数カ月でずいぶん減り、水稻の作付けが期待されている。2017年6月12日



小さなことだが、以前のスライド門にはストッパがなかった。水門番が力づくで閉めるため、水門枠の上辺がハの字型に変形してしまうのだ。言っても言っても、水門番が叱られるだけで、改善されなかったが、カチャラの沈砂池でやっと実現した。2017年6月12日



下流側の主幹水路ライニングは1.5 kmに達している。2017年6月12日



沈砂池から上流側を望む。護岸様式もほぼ定着している。2017年6月12日



1200m地点。一般にこの地域は急傾斜で、所々に step down を設ける。急斜面には後で巨石を配置して粗度を増し、流速を殺す。レベルに合わせて自在に用水路側壁を造成できるのもふとん籠の利点だ。2017年6月12日



1500m地点、調節池（緩衝池）の候補地。最も大きな洪水進入路で、自然河川に近い状態であった。護岸と調節池造成によって下流域の湿地は更に減る。
2017年6月12日



洪水進入点は幅 100m、密に埋設水制を置いて埋め立てている。小さな丘を作って樹林帯を置き、万一溢水しても大丈夫なようにしている。2017年6月12日



河の増水と共に発生する浸透水。今回は初めから用水路に浸透水を取り込む設計で、耕地の湿地化を防ぐ。川沿いの用水路で、時々流量が取水量を上回るのはこのためだ。筑後川沿いでは、大石堰の水路がこれに似ている。2017年6月12日



護岸線・交通路

主幹水路ライニング

3.6 km地点。クナール河に戻る最大の排水路。川の水位が高くなったとき、逆流をいかに防ぐか、観察中。ここでしめきり堤と連続する。2017年6月12日



護岸線・交通路

同部を小高い B2 岩盤から望む。最新の防御線は約 500m 陸側にあるが、その前に幾重もの壊れた防御線がある。度々洪水に襲われてきたことが分かる。3.6 km 地点の「排水路」出口は、実は洪水通過路で、それも無秩序な取水で悪化させ、耕地を荒廃させてきたと思われる。2017 年 6 月 12 日



4.8 km地点（分流発生地点）。しめきり堤の現在。クナール河は天井川となり、決壊が悪夢である。加えて対岸のタンギトゥクチー側で高い堤防が築かれているので、最も危険な場所だ。相当の物量を要すると見ている。川からの浸透水はかなり引いていて、タラーン村、ベラ村でスイカの作付けが行われている。

2017年6月12日

